

🍀カンザスシティ \*\*\*\*\*

## 低学年の算数

カンザスシティ補習授業校  
1年担任 浜田 佐知

### ●補習授業校で算数を教える意味

算数は、現地校でも教えられているわけですが、補習授業校で算数を教える理由は、駐在の家族が日本に帰国した際、算数についていけなくなることを防ぐためだと推測します。現状は、当校では駐在の家族は全体の12%ほどですが、駐在家庭以外の子供たちも、補習授業校の算数の恩恵を受けていると、私自身の子供の体験からも感じています。

日本の算数の教え方の特徴として、以下のことがあげられるかと思います。

- ①ドリル重視、スピード重視で、基礎を反復させること。
- ②一つの単元を理解してから次に進むシステムになっていて、一つの単元にまとまった時間を割くこと。
- ③九九など、日本語の音を利用した学び方があること。
- ④やり方が体系化されており、おはじきやブロック、タイル、マグネットなど道具も使うことで、よりわかりやすいこと。

私の娘は、小学1年の1月から小学4年の12月まで上海の英国式インターナショナルスクールで学びました。上海には、全日校はありましたが、週末に通える補習校はありませんでした。

小3の時に、割り算でつまずき、クラス内の算数習熟度別グループAからDのうちCにいましたが、公文のドリルで繰り返し練習したところ、テストでクラスで3番になったというできごとがありました。夫はシンガポールのドリルを買ってやらせていましたが、難しすぎて役に立たず、日本の基礎を徹底させるドリルの効果を感じました。

インターナショナルスクールは、英国式でしたので、算数のカリキュラムも英国式だったと思うのですが、一つの概念を完全に理解し、定着させる前に新しい概念が出てきて、娘は混乱していました。分数を習ったかと思うと、次の日には小数が出てくるといったふうで、両方が頭の中でぐちゃぐちゃになっていました。似たものを別の表し方で教えることで大きく捉える、という目的で分数が出て来たり、小数が出て来たりしていたのかもしれませんが、私は一つの単元にまとまった時間を取り、理解させてから次に進む日本の算数の教えの方がわかりやすいと感じました。

一方、アメリカでの現地校は英国式とは逆だったようで、1年のアメリカ滞在の予定で日本から来た家族は、英語の授業についていけるように、本来なら2年生のお子さんをあえて1年生に入学させたのですが、「いつまでたっても一桁の足し算しかしない」ということで、担任の先生に相談し、日本でやっていたプリントを見せて、一人だけ他のお子さんたちより難易度の高い宿題をさせてもらうようになったということでした。

また、娘と娘より3学年上の息子は、上海ではインターナショナルスクールが、アメリカでは現地校が夏休みに入ると毎年日本の小学校に体験入学していました。日本の小学校では、算数の時間ごとに百マス計算が行われており、同級生たちの計算の速さに息子は驚いていました。その中で息子は、決して速い方ではなかったそうです。ところが、そんな息子がアメリカの現地校では算数ができる

言われ、算数では時には他の子たちとは違う宿題を持ち帰っていました。これは、補習校で九九という日本ならではの掛け算術を学んだことと、百マス計算の成果だったと思っています。

また、私は夫がアメリカ人である関係で、アメリカ人の姪がおり、ホームスクールをしている姪の7歳の子供をベビーシッターすることがあります。一度ベビーシッターをしに行った時、姪の子供は、繰り下がりのある引き算のドリルをするように与えられていましたが、全くやり方を理解できていませんでした。私は、 $13-9$ を補習校で教えると同様に、 $13$ を $10$ と $3$ に分ける。 $10$ から $9$ を引いて $1$ 。 $1$ と $3$ で $4$ 、と教えました。姪が帰って来てから、そのように教えたことを伝えると、 $13$ を $10$ と $3$ に分けるのが、とてもわかりやすく新鮮な教え方だと感心されました。姪の子供はホームスクールでも、姪は普通に学校に通い、大学を卒業していますが、そのようには習わなかったようで、答えを暗記するしかなかったようです。私の夫にも小学生の頃どのように理解したかを聞いたところ、数直線を使って理解し、答えを覚えたということでした。姪にしる、夫にしる、小学校時代は昔のことなので、現在どのように教えられているのかわかりませんが、国によって教え方が違うものだ改めて知り、日本の算数の教え方のわかりやすさをまたしても感じました。

#### ●算数を日本語で楽しく学ばせるアイデア

##### ①全員が手持ちのホワイトボードに答えを書くクイズ

カンザスシティ補習授業校では、オンライン授業をするにあたって、各生徒にホワイトボードの購入を求めました。私のクラスでは、算数の問題は、教科書をシェアスクリーンに表示し、カーソルでどの問題かがわかるようにして、答えを各自がホワイトボードに書いて、画面に向けて見せるようにしています。このようにすると、全員が参加します。そして、正解者を指して、式と答えを読んでもらいます。

もっとも私は、ホワイトボードをオンライン前の対面式の授業をしていた時から国語でも算数でも使っていました。「はい、ここで問題です」と言って、問題を出し、ホワイトボードに答えを書かせて、「せえの、ドン！」で、答えを書いたホワイトボードを各自が一斉に見せる、というテレビのクイズ番組を真似たやり方を授業に導入していました。これには、子供たちはとても興奮しました。

「全員正解です！」などと言おうものなら大喜びでした。これは、子供の集中力を切らさないために効果的なやり方だと思います。オンラインでも同様にできます。

##### ②おはよう3

算数で最初につまずきやすいのは、繰り上がりのある足し算だと思うのですが、日本で低学年の算数を専門に教えていた友人が「おはよう3」というゲームを教えてくださいました。「おはよう3」と言われると「おはよう7」と答える、「おはよう5」と言われると「おはよう5」と答えるというように、足して10を作るゲームです。できれば、繰り上がりのある足し算に入る前に、やっておくといいかと思います。私と娘もお風呂に入る時などによくしました。教えている授業でもしましたが、メールで保護者にも紹介して、家庭でも取り入れて遊んでいただけるよう提案しています。

##### ③カルタ、ビンゴ

2年生の算数の教科書には、掛け算のカルタやビンゴなどの遊びも出てきて、2年生を教えている時、授業でもしました。これをとても楽しんだ子供たちもいたようです。年度末に何が1番楽しかった

たかを作文に書いた時に、算数のゲームが楽しかったと書いている生徒がいました。オンラインでカルタは難しいですが、学校に通えるようになると、授業でしたいことのひとつです。